

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	ひかりの里 1階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果市町提出日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100658-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470100658-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成25年 11月 26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「年寄りの底力を活かす」を実践するため昔取った杵柄(竈でのご飯炊き、門松・しめ縄作り、料理・おやつ作り、布巾・雑巾作り、ボタン付け、畑の野菜作りのコツ等)を併設の放課後児童健全育成事業の児童クラブの子ども達や職員に教えていただいている。又事業所内保育の幼児や共用型DSの中で受け入れている日中一時支援のしょうがい児の世話をいただいている。日々の生活の中で役割を持ち感謝される存在になっていただけるよう支援している。自治会活動や地域の小学校行事にもできるだけ参加し一地域住民としてその人らしい生活を送っていただけるよう努めている。また外出、買い物、散歩を兼ねた防犯パトロールを実施し定期的に戸外へ出て頂けるよう支援している。家族との時間も大切にしており、年2回ホテルで家族会合同の会食会を催している。ご家族との外出支援またご家族と連携し携帯電話でいつでも家族と連絡ができるよう支援している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2003年設立当初から「お年寄りの底力を活かす」ことを法人理念に掲げている。職員の認識レベルは高く、利用者も自分の経験を活かした役割分担や児童クラブの子どもたちとの交流で、非常にいい笑顔である。自治会との関係も良く、防災では災害時の避難等についての協定を結ぶところまで来ている。地域の行事や小学校の行事には積極的に参加しており、小学校でのお祭りで「わらび餅」販売は好評である。家にいるより事業所に来ている方が楽しいと、若い職員は言うほど事業所内の雰囲気も良く笑顔がある。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念“お年寄りの底力を生かす”を職員一同で理解・共有し、利用者の自信回復、生きがいづくりに取り組んでいる。	理念の共有は出来ており、「底力」を生かすことで利用者が自信回復し、生きがいを持つことにより変わってくるのがわかる。新人には利用者個々に力を生かせる役割をみつけるよう、チームで考えて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域清掃や青少年育成地区会議、地域防災訓練等に積極的に参加している。防犯パトロールの腕章をつけて散歩やショッピングセンターに出かけ、ご近所の方たちと交流をはかっている。児童クラブの子ども達とその親とも日常的に交流している。	近隣とは日常の挨拶をはじめ、通夜に参加する等の付き合いをしているし、自治会とも定期的な清掃から祭りなどの催し物には必ず参加している。小学生の下校時には利用者が迎えに出かけているし、学校の祭りにはわらび餅を売る等、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・音楽療法・傾聴ボランティアの受け入れをしており、それを通して認知症の理解や支援の方法を広げている。また、行事などを開催する際、地域の方々にも参加して頂けるよう工夫し、認知症についての理解など地域に広がるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、桑名市介護高齢福祉、北部地域包括支援センター、第三者委員、自治会長、ご家族にも参加して頂き、取り組みを報告している。また、防災訓練等に参加していただき、意見や提案を頂き、安全対策やサービス向上に活かしている。	年6回の開催も定着しつつあり、事業所運営の1つのツールになってきている。この1年は防災訓練に力をいれ、会議メンバーの参加もあり、意見をいただいている。自治会とは防災協定を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	桑名市地域包括支援センター、認知症見守り安心ボランティア教室の受け入れをしている。また、学生ボランティアや桑名市介護支援ボランティア、三重県社協のインターンシップの受け入れをいっている。徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関となっている。	市や包括、社協から各種の実習生や研修会、体験等の依頼があり、すべて受け入れている。また、施設長や管理者が運営推進会議関係や認定更新など積極的に情報連絡を密に取るようにしており、連携はよい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修会を実施し職員全員が身体拘束をしないケアを実践しており、万が一そのようなケアが必要な場合は、ご家族にその旨を伝え、承諾を得て、記録に残すことになっている。身体拘束ゼロへの取り組みをしている。	年間研修計画の一つに身体拘束があり、全職員が勉強しているし、各スタッフ間でも検討している。言葉の拘束についても各人が注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の研修で、虐待防止の職員の意識を高め、ケアの話し合いの場を持ち、利用者の状態の把握に努め、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について研修会・勉強会を開き、参加出来なかった職員には関係資料を配布し、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、事前に日時決めて、必要書類を前もって準備し内容・運営方針・権利・義務などが十分に説明ができるように努めている。利用者、ご家族が不安や疑問点を聞きやすいように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に要望受付表があり、「御意見箱」を設置している。ご家族が面会に来られた際に職員は日常生活の様子を報告し利用者、ご家族に3カ月に1回のカンファレンスの際に意見・要望を聞くようにし、運営に反映させている。	家族の面会時や3ヶ月に1回のカンファレンス会議、年2回の家族会等で家族からの意見・要望の吸い上げに努力している。面会のない方や欠席の方へは電話や別の日に来られた時に、利用者の様子について詳細話している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月「月間報告書」に業務改善案を書き提出してもらっている。また月1回のカンファレンスにて意見・提案をきき、運営に反映している。	事業所独自の「月間報告書」を毎月全員が提出することになっており、その中に業務改善や事業所の雰囲気作りについても意見を出すことになっている。毎月全職員が必ず提出しており、意見もたくさん出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「月間報告書」に各職員が時間外に行った仕事を記入して、運営者に提出してもらっている。また研修会・勉強会のレポートを提出してもらい努力手当や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアや能力に応じて、グループ内外の研修や外部の講師を招いての勉強会の参加を促している。また、研修報告書やDVDを回覧し、参加できなかった職員にも情報が得られるようにしている。DCMを外部上級マッパーに依頼し職員と共にマッピングを行いケアに活かせるようフィードバックしてしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	責任者は三重県地域密着型サービス協議会で理事をしており、他の施設との情報交換やネットワーク作り他、職員の研修会・勉強会・全国大会への参加や事業所見学・実習生の受け入れ、見学に行くなどを積極的に行っており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、求めていることなど、本人の思いをじっくり聞く機会を持ち、職員全員で情報を共有し安心できる環境や人間関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況を聞き、困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し一緒に考え、ご家族をサポートしていく関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや、医師・入居前のサービス事業者・家族との連携を行い、求められることを支援できるかどうかミーティングで話し合い、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人やご家族からの情報をもとに個々の利用者の状態に合わせ、役割を持って頂き、昔取った杵柄を生かし、かまどでのご飯炊き、おやつ作り、畑仕事などをして頂き、人生の先輩として、様々な事を教わりながら取組み、共に支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアカンファレンスにご家族にも参加して頂き、共に本人のケアを考えている。食事会や大掃除、餅つき、夏祭りなどの行事にも参加して頂いている。本人の様子を面会時や定期的に伝えたり、本人・ご家族の思いを傾聴し、共に支えていく様働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	商店街や神社など、馴染みの場所へ外出機会を作り、馴染みの人との交流のきっかけ作りをしている。また、馴染みの人との交流や馴染みの場所へ行くことが出来る様ご家族にも働きかけている。友人・ご近所の方の面会時親しくお話しができるよう支援している。	馴染みの神社へ初詣に行ったり、馴染みの服屋に外出着を買いに行ったり、回転寿司には年数回は出かけている。家族と一緒に外出することも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が良い関係を保てるよう席の配置や環境作りを行っている。それぞれが役割を持ち、互いに助け合い感謝される存在になって頂けるよう関係作りに努めている。日中一時支援やデイサービス利用者との関わりも積極的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより、退居された後も必要に応じて、本人・ご家族の不安や要望等を傾聴し今後のサービス利用における相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートやお年寄りの底力を生かす取り組み表を活用して、本人の思い、希望、意向などを本人との対話やご家族からの情報などから、把握するよう努めている。	「お年寄りの底力を活かす」アンケート資料があり、それに基づいて、利用者本人や家族から思いや意向を把握している。誕生日に食べたいものや催し物の日に着たい着物など、利用者の希望や意向は多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの、生活の様子を本人、ご家族、担当ケアマネージャーから聞き、センター方式を活用し、生活歴、環境、嗜好、特技、馴染みの物、昔の出来事など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、一日の動きや心身状態・思いなどを、職員全員が把握できるようにしている。個別記録にご本人の言葉を記録し、心身状況の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスにご家族にも参加して頂き、本人の要望も加え、本人主体の課題やケアの在り方を話し合っている。医師・歯科医師・薬剤師・STからの助言を活かした介護計画を作成している。ご家族にサービス評価や要望を頂いている。	一人の利用者について全職員が意見を出す方式であり、日頃の意見をまとめ、月1回のカンファレンスに掛け、3ヶ月に1回の介護計画書作成につなげている。医療関係者の意見をはじめ、家族にはサービスに関する満足度評価をしていただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌・療養シートに日々の様子や気づきなどを記入し、情報を共有している。家族や協力期間の医師・薬剤師などと連携し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	学童保育、事業所内保育、デイケアなどグループ全体の行事へ参加し、交流を図ったり、幼児との防犯パトロール・日中一時支援のしょうがい児との交流も行っている。本人の要望に応じた外出・外食や買い物など支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会参加、小学校の祭に出店、音楽療法、傾聴ボランティア、学生ボランティア、桑名市ボランティアセンターなど交流を行っている。自治会の広報の配布や回覧板、自治会の祭参加、資源ごみ回収、公園の草取り、散歩を兼ねたパトロールなど、地域の中で力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の主治医、月2回の内科、月1回の神経内科、循環器、脳外科医の往診を実施している。歯科については、必要に応じて、個々のかかりつけ医へ受診及び往診をしている。その他の初診に関しては、主治医からの紹介状を持参している。	利用者全員が理事長を主治医としており、定期的に往診を受けている。耳・目・歯は個々のかかりつけ医であり、家族の都合の悪いときは職員が支援したり、往診に来ていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療提携しているウエルネス医療クリニックの看護師に日常的に健康状態の変化などを相談し、個々に合わせた受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を医療機関に伝え、連携している。また、本人、ご家族の希望を聞き、医療機関との情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を想定し、ご家族にアンケートを実施している。ご本人にも医師・職員・管理者からご希望を聞くように努めている。利用者の状態変化に応じ再度、本人・ご家族と医師と連絡相談しながら、支援を行っている。	重度になった時の「緊急時対応」同意書があり、今年8月にも事業所での終末期対応をしている。職員の意識も十分であり、利用者も特に動揺はなく、葬儀にも参列している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、AED使用法、緊急対応の研修を行っている。事故やヒヤリハットの個別マップを作り、情報を職員が共有し、事故発生を未然に防ぐ対策を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員に来て頂き、利用者と共に年に3回以上の避難訓練を行っている。また消火器使用訓練を行っている。自治会、運営推進会議参加者、クリニックの男子寮への協力依頼をしている。緊急時の一斉メール、緊急連絡網体制を整えている。	年3回消防署員立会いで、火事・地震災害の消火・避難訓練をしている。夜間想定もしており、備蓄もほぼ1週間分ある。自治会・運営推進会議にもかけており、訓練時の立会いもお願いしている。	同様な事業所の火災事例もあり、また大規模地震も近い将来予想されている。多数の人命を預かっている事業所として、「想定外」は許されない。ぜひ訓練回数を多くして非常事態に備えられるよう準備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会、研修会を通して、利用者の誇りやプライバシー保護への意識向上を図っている。	「トイレ」という言葉は使用せず、紙に書いて見ってもらうようにしているし、本人の思いを確認するときでも、職員からは言わずに「相手の話すのを待つ」ようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表現しやすいように傾聴し、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話をもち、一人ひとりどのように過ごされたいか聞くようにし、意思決定の尊重に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、本人と着たい服を選ぶようにしている。2カ月に1回散髪ボランティアに来て頂いている。外出の際、希望される方には薄化粧を楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事や誕生日等にふさわしいメニューを取り入れたり、嗜好調査を行い利用者が調理で活躍できる献立、食事が楽しみになる献立を栄養士が作成している。利用者と一緒に準備、味付け、食事、片付けなども行っている。	毎年嗜好調査をし、メニューは管理栄養士がつくり、食材は職員と利用者が買いに行ったり届けてもらったりしている。利用者も盛付け、配膳・片付け・洗い終わった食器拭きなど、出来ることを手伝っている。昼食は事業所内保育の幼児と一緒に食べることが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し、個々に合った栄養補給、好みの飲み物を工夫し、水分補給が出来るように支援している。食事の形態、提供のタイミングを工夫し完食していただけるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下体操を行っている。また毎食後、個々に応じた声かけをしながら、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわかる様張り紙をしている。個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促し、リハビリパンツ、パッドの使用を減らし、目標として布パンツで過ごせるように努めている。	利用者各人のプリストルスケールをつけ、排泄パターンの把握から全員布パンツを目標に努力している。また便秘にならないように、食べ物をはじめ水分を多く摂るよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導し、腹部マッサージを行っている。食物繊維の多い食材を取り入れた献立を栄養士が作成している。寒天や食物繊維の多い野菜を利用したおやつをゆったりと行ったり、米に寒天をまぜて炊飯している。掃除・体操・散歩などで体を動かすなどで、自然排便が出来るよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、個々の希望に合わせて入浴して頂けるように支援している。また、残存機能を活かしていただける様時間をゆったりとしている。入浴を個別対応できる機会をとらえ、楽しい会話を交えながら楽しく入浴できるように努めている。	入浴を楽しいものとするため、脱衣所の温度や湯温を調整したり、好みの音楽をかけたりしているし、利用者の希望で、足や肩のマッサージをしている。2階には腰かけて入れる最新の機械浴槽がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣、状況に応じて、光・音・室温を整え、安心して眠れるよう支援している。定期的に寝具を干し、カバー・シーツの洗濯をし衛生管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師の指示のもと、服薬支援を行っている。薬の副作用、用法用量の理解に努め、利用者の状態や変化など、主治医・薬剤師に報告し、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力を活かした役割を持っていただいている。1日おきに食材の買い物に行き、生活の担い手としての張り合いを持てるよう支援している。児童クラブの児童とハロウィーンクッキーを作ったり、クリスマス会を楽しんで頂いている。他ユニットと合同でひな祭り会を催し和服を着て楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	回覧板まわし、郵便物届け、他ユニットへのおすそ分け、畑仕事等戸外へ出かけられるよう支援している。個々の希望に応じて、買い物、季節の花見、フラダンス鑑賞、音楽会参加等外出を支援している。ご家族に本人の希望をお伝えし、協力をお願いしている。ご本人の希望により選挙の投票に行けるよう支援している	全員が「1日1回はお日さんに当たる」ようにしており、防犯パトロールをかねた日常の散歩や、畑作業、子どもの出迎えなどの他、業務スーパーでの食材の買い物も多い。季節の花見や地域の催し物には積極的に外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者には、お金の管理をご自分でして頂いており、要望に沿って買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と連携し、携帯電話にていつでも家族と連絡が出来るように支援している。郵便局へ行く機会もつくり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間でのテレビの音量や室温、光等には気をつけて設定しており、希望時は、その都度、安心して頂けるよう対応している。リビングには、季節の花を活け、壁面に飾りをつけたり、楽器を弾いたり、なじみの音楽を聴いて居心地良く過ごせるよう工夫している。	3階建ての建物であり、1階と2階の居間兼食堂は床暖房になっているので、冬は暖かい。利用者が長時間おられる部屋であり、空調への気配りはもちろん、季節感を出すよう花を活けたり、利用者の作品や行事の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、籐椅子、中庭・玄関先にはベンチとゆったり過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使いなれた家具や日用品を持参して頂き、居心地良く、安心できるような工夫している。	居間兼食堂にいる時間が長く、居室は寝るだけの部屋という感じであるが、鏡や椅子、テレビ等を持ち込んだり、写真やカレンダーを壁に貼り付けたりと、自分の部屋作りをされている。手すりに紙袋をたくさんかけ、用途別に仕分けしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	児童との交流が日常的に行えるよう児童クラブが併設されている。シルバーカーを押して水やりに行ける様、中庭に畑がもうけられている。個々の能力を活かし、役割を持って安全で自立した生活が出来るようにしている。		